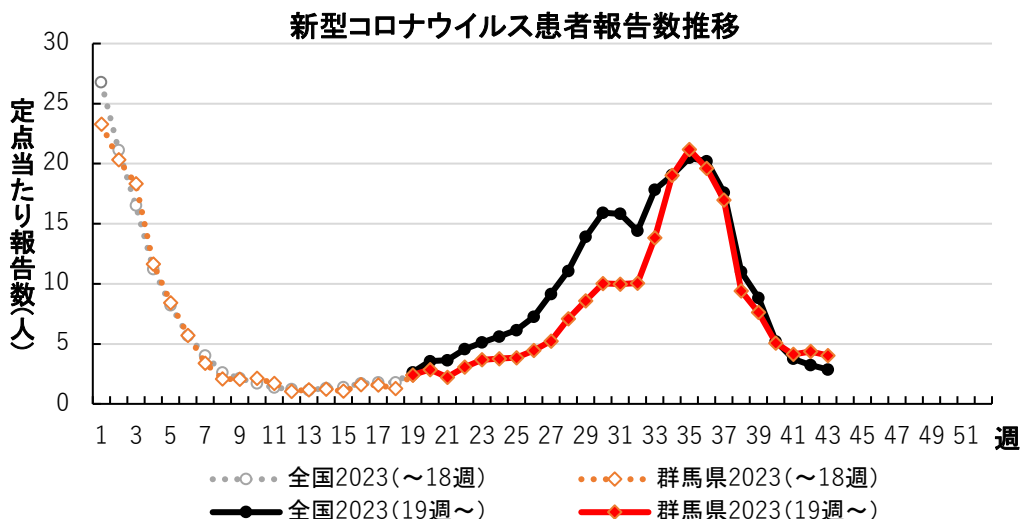


● 新型コロナウイルス感染症（定点報告疾患）

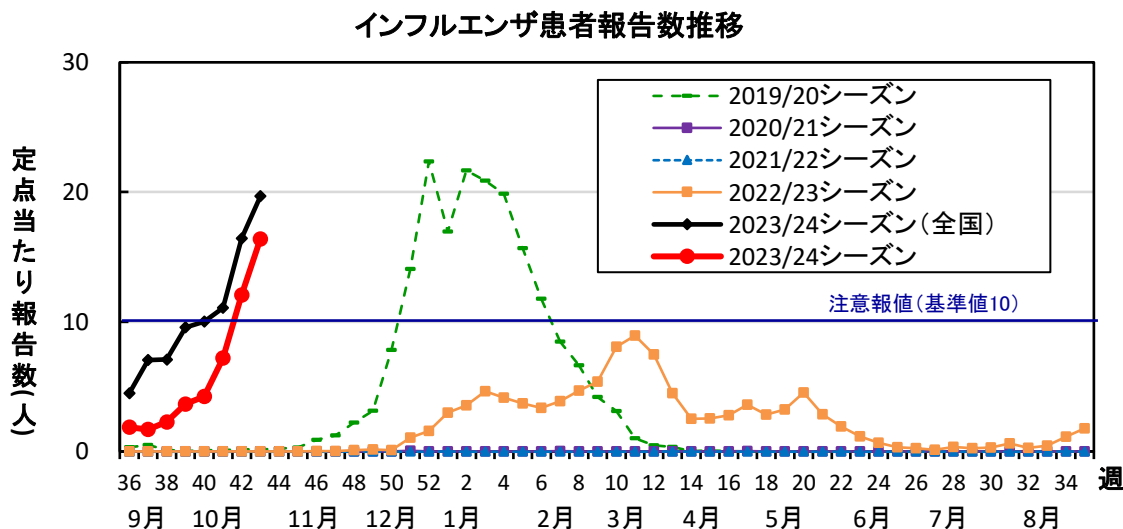
- ◆ 2023年第43週（10月23日～10月29日）の定点からの報告数は351人（定点当たり4.03人）でした。【第42週（10月16日～22日）：380人（定点当たり4.37人）】
- ◆ 年齢群別で10歳代が92人（26.2%）と最も多く、次いで10歳未満が57人（16.2%）でした。



※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数（令和4年10月3日～令和5年5月7日の週次データ）から作図

● インフルエンザ（定点報告疾患）

- ◆ 第43週の定点当たりの患者報告数は16.39人で、第42週（定点当たり：12.06人）より増加しました。
- ◆ 群馬県では第42週に注意報値（基準値 10）を上回り、県内でインフルエンザ注意報が発令されました。
- ◆ 定点医療機関の迅速検査結果は、A型が多くを占めています。
- ◆ インフルエンザ様疾患による学校の臨時休業（学級閉鎖など）も増加しています。



●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について(Vol.43)

新型コロナウイルスゲノム解析結果(2023年第41週(10月9日～15日)まで)

県内では、オミクロン株が2021年第50週(12月13日～19日)に初めて検出され、2022年第1週(1月3日～9日)以降、BA.1が主な流行となりました。

2022年第2週(1月10日～16日)に渡航歴のある患者からBA.2も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでした。第9週(2月28日～3月6日)以降、BA.2の検出が増加し、主な流行となりました。第25週(6月20日～26日)以降、新たにBA.5が主流となりました。

2023年第15週(4月10日から16日)以降は、XBBが目立って検出されるようになり、主流となっていると考えられます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりましたが、引き続き医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が重要と思われれます。

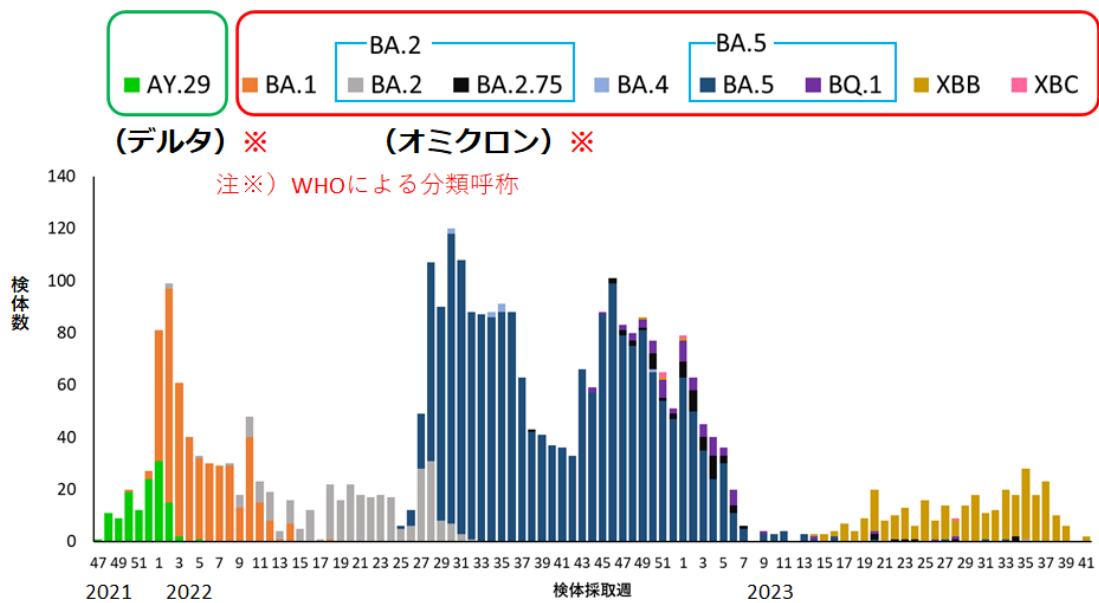


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

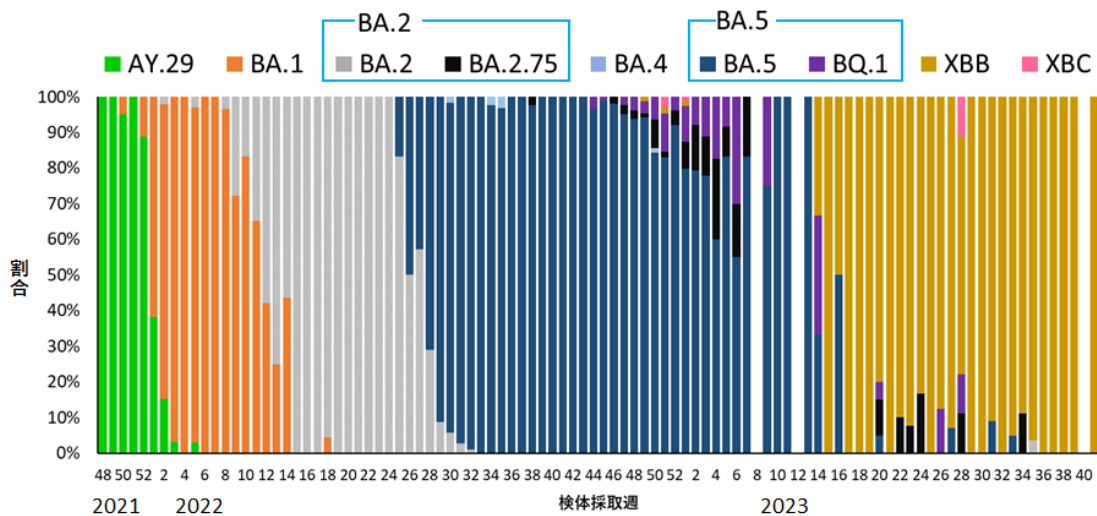


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合%)【群馬県衛生環境研究所実施分】